

図書館だより

平成31年1月



明けましておめでとうございます。

今年の読書はじめはどんな本ですか？

平成最後の年が明けました。元旦から気持ち良いスタートを切ることができたでしょうか。

新年を迎えると、楽しいことがたくさんありましたね。初詣やおせち料理、お雑煮、お年玉等々、家族でいいお正月をきっと過ごすことができたことだと思います。また、宿題や勉強の時間に有効活用した人もたくさんいたでしょう。

「1年の計は元旦にあり」という言葉が古くからあります。「1年の計画は年の初めである元旦に立てるべきであり、物事を始めるにあたっては、最初にきちんと計画を立てるのが大切だ」という意味があるそうです。

目標は大きければ大きいほどいいと言われます。その目標に近づくためには、日々の積み重ね（立てた計画を実行し、達成すること）が大切です。「あと少しで達成できそう…！」と思えるスマールステップ、友達と声を掛け合い、始めてみませんか。

今年はいのしし年



亥年は十二支の中で最後の年です。

ということは、十二支を植物の一生と考えると、戌年でたわわに実った果実が種子になり、**エネルギーを蓄えて次の世代へと向かう準備をする**という意味の年だそうです。

また、猪の肉に万病予防の効能があると信じられていることから、**無病息災**の意味が生じました。

そして、猪の猪突猛進の性質から、**勇気と冒険の象徴**ともされています。

図書補助員森田さんおススメの本

「見てる、知ってる、考てる」
中島芭旺著

思慮分別や賢さは年齢で決まるものではないという意味です。

著者は誰の考えにもなぞらず、自分の言葉で真理を紡ぎだそうとしているように読んでいて感じました。

【お詫びと訂正】

12月号にアンデルセンの出生地はドイツと記載しましたが、正しくはデンマークでした。お詫びして訂正します。

